

教育への投資

園長 児嶋 草次郎

コロナ禍の中ですが、宮崎県は3月に入って収束状態にあり、また目的地山口県・島根県も落ち着いていたので、今年も高校生自覚旅行を実施することができました。高校3年間で、岡山孤児院発祥の地（岡山）、坂本龍馬銅像（高知県）、そして吉田松陰の松下村塾（山口県）を訪ね学ぶことにしています。今回中止すれば、その三つのうちどれかに行けないことになり、子供たちにとっては、自分の運命を変えるための大きなチャンスを失うことになります。啐啄同時（そったくどうじ）という言葉もあります。今突かねば答えてくれません。昨年もそうですが、多少のリスクを犯してでも連れて行きたいと思いました。

今年は、山口県萩市の吉田松陰に学ぶ旅行となりますが、それよりちょっと足を延ばして、島根県の出雲大社参りもしたいと考えました。もちろんこの100年に一度の疫病の退散をお願いするためにです。そして天孫降臨の地宮崎で生まれ育つことに誇りを持つためです。子供たちはもちろん、私も一度もお参りしたことがありません。

3月31日（水）、朝5時14分に貸切りバスで園をスタート。新高校生も含めて子供9名、職員は私を含めて5名、総勢14名の旅です。前日からの黄砂のせい、暗闇の中に浮かぶ月は霞（かすみ）に包まれたようにぼんやりしています。高速道に乗って、太陽が出始めたのは6時が過ぎてからでした。霧（もや）ため日向灘の水平線は見えず、モネの世界の日の出でした。大分県との県境の山々の山桜はすでに散ってしまっており、若葉がモリモリと躍動し始めていました。8時15分頃、別府湾サービスエリアで休憩のため下車すると、空気はひんやりとしており、山の山桜はまだ満開です。これが連年の景色です。

毎年この時期に高校生たちと旅行していますが、今年の宮崎の3月は異常なくらいあたたかでした。3月2日に水につけた種籾が、3月21日に苗代に播く時は、芽や根が伸びすぎてしまっていて、一部捨てねばならないほどでした。こんなことは、50年近くこの仕事をしていて初めてのことでした。夏、また異常気象にならなければよいと思います。

10時15分頃関門海峡を渡り、萩に着いたのは、11時半頃でした。レストランで昼食を取り、いよいよ松下村塾へ。

満開のソメイヨシノが私たちを迎えてくれました。単なる観光ではなく、知識を得るための旅でもありません。私は、古びて小さな松下村塾の前にみんなを集めて次のように話しました。

「吉田松陰は30歳で亡くなっており、一人で何かをなすとげたわけでもない。松陰の偉さとは何なのか。当時、中国が欧米の餌食になっていることを知り、日本をそうさせないため国を変えようと思った。松下村塾で若者たちと師弟同行の生活をしながら教育を授けるのだけでも、そこで学んだ若者たち（高杉晋作、久坂玄瑞（くさかげんすい）、伊藤博文等）が、師の志を自分の志として、師の教えを次々に行動で現実化していき、そして国を変えた。そういう影響を与えたところが松陰の偉さである。

石井十次についても同じようなことが言える。十次は死期を悟ると、職員や卒園生たちを枕元に呼び集めて、みんな1人ひとりが十次になって志を引き継いでくれという旨のことを言っ

た。その志をそれぞれが捨てなかったから、施設は一旦解散するも村として残り、戦後の昭和20年、石井記念友愛社として再生することができた。みんなもこうして、石井記念友愛園で生活することができている。石井記念友愛園で生活するということは、石井十次の志の10分の1でも100分の1でも引き継ぐということではなければならない。」どれほど子供たちの心に響いたかは分かりませんが、常に自分の運命と重ねながら対象とする人物に近づこうとする気持を持たせねばなりません。

その近くに立つ石碑に刻まれた次の松陰の和歌も大事な言葉です。そこでも必ず立ち止まり説明します。

「親思うところにまさる親ごころ けふの音づれ何ときくらん」

30歳で国家転覆罪で斬首される前に詠（よ）んだ歌です。お父さん、お母さん、助けてくださいではないのです。自己中心的な発想ではなく、自分を鳥瞰（ちょうかん）し、親の気持ちになって今の状況を見つめ、「申し訳ないな！」という気持ちを歌にしているわけです。

子供たちは、親を恨むことが多いのですが、この歌を反芻することで、親を責めるだけではなく、親の立場に立って自分を見つめ直す感性を持ってほしいと思うのです。親も一人の淋しい人間なのです。

その後私たちは、吉田松陰一族の墓地と生誕の地、藩校のあった明倫館跡、そして萩城跡等を訪ねました。墓参りし生誕の地に立った時のことです。松下村塾でも出会った高校生くらいのグループとまた出会ったのです。何グループか自転車で回っているようでした。生誕地の所にも案内役と思われるネームプレートを下げた中年男性がいたので、その女生徒グループと一緒に話を聞かせていただきました。その地から見下すとお城の立つ指月山の方に太陽が沈んでいたという話は印象的でした。全国から集って来た若者ということでしたが、私たち以外にも、志を養おうとする団体があることを心強く思いました。

4時すぎには、3年前にも泊めていただいた市内の民宿「美城浜荘」に到着。近くに寺町というバス停が立っていて、昔の門前町です。6時半の夕食まで時間があつたので、私は近くを散策しました。由緒あると思われる古いお寺が何軒も並んでいます。細い路地に構わず入っていくと、忘れ去られた墓地があり、その隅に4体ほどの小さなお地藏様が枯れ草に被われたまま放置されていました。ここに眠る人たちの慰霊のために作られたのだろうに、お気の毒です。その顔は少年のようにも見えるし、少女のようにも見えませんでした。帰り、道に迷って、あるお寺の掲示板の言葉がこれ。「孝養父母は第一にて候（そうろう）」。

夕食はみんな食堂に集まって一緒に食べます。隣のK男と次のような会話をしました。

「お前は、友愛園に来る前、家族で旅行して、こうして食事したことあるか？」

「ありません。」

「お前が将来結婚して家族を持ったら、こうして子供を連れて旅行するんだぞ。」

「はい。」この旅行は家族の文化を伝えるための大切な行事でもあるのです。

2日目の4月1日（木）、私たちは7時半に宿を出発しました。ここからは未知の領域へ入っていくことになります。目的地は「出雲大社」です。日本海の荒波に洗われ出入りの激しい海岸線に沿った国道191号線をひたすら北上します。家々に花が少ないせいでしょうか殺伐とした感じの町をいくつも通り過ぎ、トンネルをくぐるごとに、時代をさかのぼっていくような感覚にとらわれます。途中から建設中の高速道路に乗ったり下りたりしながら、出雲市に着いたのは11時半頃でした。4時間かかっていますから、宮崎からでしたから福岡市まで行く距離です。『思えば遠くに来たもんだ！』

私は、宿を出発してからすぐ、子供たちが居眠りを始める前に「記紀神話」について簡単に

話しておきました。

天孫降臨の地宮崎と出雲とは、深いところでつながっている。10Kハイキングで西都原古墳群に行くけど、あの古墳群の北側の一段低い所にコノハナサクヤヒメとニニギノミコトの出会った場所があり、コノハナサクヤヒメが子供を産んだ場所もあります。ニニギノミコトはアマテラス（太陽神）の孫で、天上界から地上に降りて国作りをするようにアマテラスより命じられたのです。高千穂に降りて、西都原でコノハナサクヤヒメと出会い、こどもを3人もうけます。ちなみに、男狭穂塚（おさほづか）がニニギ、女狭穂塚（めさほづか）がコノハナサクヤヒメの墓と言われています。三人の子供の長男がホデリ（海幸彦）で、三男がホオリ（山幸彦）です。ある時二人はそれぞれの道具を交換するのですが、弟ホオリが兄の釣り針をなくしてしまいます。弟はその釣り針を求めて海の神の所へ行き、トヨタマヒメと出会います。釣り針も見つけて2人は結婚します。出産の時、決して見てはいけませんよとトヨタマヒメが言ったのにホオリは見てしまい、その正体がワニであることを知ります。トヨタマヒメは夫の裏切りが許せず国へ帰ってしまうのですが、その子ウガヤフキアエズと名づけられ、トヨタマヒメの妹タマヨリヒメと結婚して、4人の子を作ります。その末子がイワレビコと言ひ、後の神武天皇です。石井記念友愛社は高原町に児童養護施設「神武の家」を作りましたが、高原町はイワレビコが生まれ育った所です。幼名がサノノミコトだったので、その名前を冠した「狭野神社」も高原町にはあります。そのイワレビコが日向市美々津から大和に攻め登り平定し、初代神武天皇として即位することになるのです。つまり大和政権を築いたのです。

この物語よりもっと先の神話と出雲地方の物語が次です。天上界の高天原には色んな神がいたのですが、日本創世の物語がイザナギとイザナミの国生みです。淡路島から次々に日本の島々を誕生させていったそうです。そして次々に色んな神々を生んでいったのですがイザナミは火の神を生んだ際やけどを負って亡くなってしまいます。イザナギはイザナミを忘れられず、死者の国（黄泉（よみ）の国）に会いに行きます。ところがそこで見たのは、ウジ虫のわいた腐乱死体でした。必死に逃げてたどり着いた先が、今、シーガイアが建っている近くの阿波岐原です。そこで死の穢（けが）れを浄（きよ）めるため体を洗います。清流で顔を洗うと、左目からアマテラス、右目からツクヨミ、鼻からスサノオが生まれたと言われています。このアマテラスが太陽神であり、天上界である高天原（たかまがはら）を支配するようになります。その孫が先ほど降臨したニニギノミコトです。一方アマテラスの弟スサノオは、姉のアマテラスに反抗したり乱暴狼藉を働いたりしますが、後に出雲でヤマタノオロチを退治したりしながらその地方を平定します。その娘婿がオオクニヌシで、この出雲地方を大いに発展させます。しかし、アマテラスに国譲りを迫られ、それを受け入れ、先ほどの神武天皇によって、日本は統一されます。国を譲ったオオクニヌシを祭る神社が「出雲大社」です。

私たちは昼食をレストランで食べた後、ちょうど1時に出雲大社の正門前に降り立ちました。松の大木に被われた参道を歩き、いよいよ出雲大社御本殿前に到着。ありがたく拝礼。荘厳で豪放、そんな感じの建物です。かつて御本殿の高さは48m、階段の長さが109mもあったそうです。その模型を「古代出雲博物館」で見せていただきましたが、当時天をも突くような壮大な建物に、人々は驚嘆したことでしょう。その博物館で買い求めた「葬られた王朝」（梅原猛著）を読んでいたら、梅原氏は次のようにまとめておられました。

『古事記』においてオオクニヌシの国作りの話が特に詳しく語られているのは、悲劇的な最期を遂げたオオクニヌシの怨霊鎮魂をひそかに行おうとしたからであろう。出雲大社建造は、この『古事記』に語られている前代の王朝の神々の鎮魂を具体的に示したものであるといえよう。」

歴史は、勝者の論理によってまとめられていきます。私たちは、オオクニヌシの国譲りと簡単に言うてしまうけど、出雲にも輝かしい歴史と文化があったのでしょうか。そして国譲りの前後には、神武天皇側との間に多くの戦いや殺りくがあったに違いありません。伊勢神宮に比べて建物や雰囲気は頑強に感じられるのは、スサノウをイメージして作られたせいなのか。

参拝をすませると、子供たちはそれぞれにみやげ物を買って、3時半頃出雲を出発しました。

この日の宿泊施設は、山陰の小京都と言われる津和野（島根県）です。3時間以上走って、着いたのは日も暮れた7時前でした。川に沿って東西に伸びる人口7600人ほどの小さな町のちょうど真ん中あたりの民宿「若さぎの宿」に到着しました。夕暮れの中ではっきりとは見えませんが、江戸時代の建物やなまこ壁がかなり残る町のような様子でした。

次の日の早朝さっそく一人で散策。周囲を高い山に囲まれた盆地です。北西の方向に見える城跡は天空のお城をイメージさせるほど高い所の山城で、石垣だけが見えます。4万3千石であったとか。川沿いに美しく咲き誇るソメイヨシノの並木をながめながら殿町通りに入ると、一気に江戸時代にタイムスリップ。漆喰壁、瓦屋根の堅牢な建物が建ち並び、道路も石畳で水路には大きな鯉が悠々（ゆうゆう）と泳いでいます。水も豊かです。私はここで新たな発見をし、後で子供たちにも説明しました。

家老屋敷の前にはりっぱな門構えの藩校「養老館」が設置されていたのです。殿町通りの一番重要な所に藩校があるということはどういうことなのか。この「藩校」からは、森鷗外や西周（あまね）等多くの優れた人材を輩出したとのこと。そうです、この津和野藩が教育を重要視していたということがひと目で分かります。我が高鍋藩もそうでした。今の高鍋農業高校の校舎の建っているところに藩校「明倫堂」はありました。家老屋敷の並ぶ通りとお城との間です。今までその位置から、いかに藩が子供の教育を大事にしようとしていたかについて考えることはありませんでした。弱小の藩ほど、次世代をしっかりと育てることは、国（藩）の存亡に関わる重大な課題であったわけです。そういう教育文化がこの津和野にあったからこそ、この小さな藩からも偉人を輩出できたのでしょう。

現代の教育は画一化されています。また少子化の流れの中で、高校の学区制が廃止され、優秀な学生は中心都市部へと集まっていきます。地方の市町村は疲弊していくばかりです。朝食の後朝8時すぎに宿を出発、津和野駅までみんなで散策し、駅でバスに乗り、私たちは家路につきましました。

僕は、藩校明倫館跡が一番心に残りました。坂本竜馬が剣を習ったと言われている本物の建物があつたからです。とても現実味があつて、すごい思い出に残っています。

吉田松陰が亡くなった後に、吉田松陰の意思を受け継いで活躍した人たちの考えをまねして、石井十次先生の意味を受け継ぐことができたらしいです。 れん（高1）

4月からは、高校生になりリーダーとして過ごさないとはいけません。旅行にいった意味をきちんと考え、学んだことを忘れず、これからの生活に生かしていけるようにします。リーダーとしての自覚を持ち、自己コントロールをしながら、周りの人に信頼されるように成長していきたいです。 ともか（高1）

吉田松陰の考えや思いに影響を受けた多くの人たちが、吉田松陰が亡くなってからも、ずっとそれを大切に引き継いでいる事に、驚きました。私たちも石井十次先生の思いを引き継いでいる施設で生活しているので、そのことに誇りを持ちたいです。

吉田松陰のように、諦めない心を持った人になり、下級生に信頼されるような上級生になりたいと思います。
れいな（高2）

僕はこれから高校生のリーダーになれるように、この旅行で学んだことを、下級生に教えてい
きながら、去年の自分を超えられるような生活をしたいです。 かける（支高2）

吉田松陰から学んだこと、自分の力として身に着けたいと思ったことが二つあります。
一つ目は、はずば抜けていた行動力です。吉田松陰の強い意志、芯の強さを学び、一度やると思っ
たことは途中であきらめず、強い意志を持ち信頼される先輩になれるように常に意識して行動
しようと思います。

二つ目は、「親思う心にまさる親ごころ けふの音づれ何ときくらん」についてです。自分
が失敗をした時にただあやまるのではなく、その失敗を親はどう思うだろうと広げて反省し、
感謝の心を育てたいと思います。
みなみ（支高3）

松下村塾は、とても狭い建物で、その中で一日中勉強をしていたと聞いて、とてもびっくりし
ました。明治維新を成し遂げた数多くの人材育てることのすごさが分かりました。
これまでの生活では自分の夢に近づけないと、見直しました。私も吉田松陰みたいに、行動力
を身に着け、園での掃除、作業をしっかりといきたいです。大学に行くためにも、勉強と部活
もがんばりたいです。
けいてつ（高2）

その塾は実際に見たら、とても小さい小屋で、2～3人くらいしか入らないような部屋でした。
そこで勉強した子供が日本のリーダーになっていったと考えると、授業内容がとても気になり
ました。

勉強するのに周りの環境は関係なく、自分の志がしっかりしていれば、どんな夢でも叶えるこ
とができるんだなと思いました。自分も高い志を持って将来は人のためになるような仕事につ
きたいです。

出雲大社では、新型コロナの終息を願ってお参りをしました。自分たちの願いが天に届いてい
るといいです。
りょう（高2）

30年という短い期間で、沢山の人間に影響を与えたこの人達は、優れた人格だったことを感
じました。今の自分は、あの人らとは大きな違いがあります。

自律力、自己コントロール力、統率力をできるだけ身に着けるために、掃除、整理整頓、挨拶
をしっかりとできるようにします。この3つをがんばり、良い意味で変わったなと言ってもらえ

るように、残り1年、必死にがんばりたいです。

たくま（高3）

吉田松陰は行動力がずば抜けていたと思います。裏目に出ることが多かったのですが、そういったところが人材育成につながったのだと思います。

今回の二泊三日の旅行を、「楽しかった」という思い出だけで終わらせるのではなく、これからの園生活に生かしていきたいです。高校生全員が協力して、館をまとめていきたいです。

しょう（高3）